



## 株主のみなさまへ

ペット保険シェアをさらに拡大すると同時に、  
新規事業の果実を確かなものとし、  
ペットの生涯すべてと接する  
インフラビジネスを加速します。

アニコム ホールディングス株式会社  
代表取締役

小 森 伸 昭

### 2017年度（2018年3月期）決算につきまして

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社におきましては、2015年度決算における配当開始以来、株主のみなさまへの配当を続けてまいりましたが、2017年度決算におきましても配当を継続することいたしました。今後も株主のみなさまのご期待に沿えるよう、より一層の努力を重ねてまいりる所存でございますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、2017年度決算につきまして、ご報告いたします。当連結会計年度におけるわが国経済は、中国景気の安定や米国景気の堅調さを背景に海外経済が緩やかに回復している中、日銀による金融緩和政策の継続や政府の景気対策等の効果もあり、個人消費は回復途中であるものの、堅調な雇用・所得情勢に支えられ、緩やかな景気回復基調で推移しました。

ペット関連市場は、これまでの傾向からしても、マクロ経済環境の変化による影響は限定的な業界であると考えており、ここ数年、国内犬・猫の飼育頭数は減傾向にある一方で、ペット産業全体の市場規模は拡大を続けており、1頭あたりにかける飼育費も上昇傾向にあります。また、ペット保険市場も順調に拡大しており、約600億円に迫るまでに成長しております。

続いて、2017年度において取り組みました当社グループの重点

施策と業績についてご説明いたします。

1つ目の施策は、「ペット保険の収益力向上」です。当社グループの中核子会社であるアニコム損害保険株式会社（以下 アニコム損保）では、精力的な営業活動に注力しており、保有契約数は698,566件（前連結会計年度末から62,896件の増加・同9.9%増）と、順調に増加しております。一方、E/I損害率は加齢に伴う保険金支払増加により59.2%と前年同期比で0.3pt上昇し、既経過保険料ベース事業費率は、経費管理の徹底やシステムを中心とした業務改善等を行っているものの、NB営業強化による代理店手数料の増加やペット保険規模拡大に向けた投資等（WEB広告強化等）により35.2%と前年同期比で3.1pt上昇いたしました。この結果、両者を合算したコンバインド・レシオ（既経過保険料ベース）は前年同期比で3.4pt上昇し94.4%となりましたが、当連結会計年度については成長に向けた投資フェーズと位置付けており、計画通りの決算となりました。

2つ目は「予防に向けた取り組み強化」です。これまでに投資を進めてきた人材・設備・データを活用し引き続き取り組んでおり、特に遺伝病撲滅に向けて、遺伝子検査事業の立ち上げを進めました。あわせて、遺伝病フリーに向けたフリーディング支援や、共生細菌をキーにした発症予防研究、予防特化型の病院運営など、動物の健康寿命延伸に向けた各種施策を進めております。

これらの結果、保険引受収益31,290百万円（前連結会計年度比

11.5%増）、資産運用収益420百万円（同16.8%減）などを合計した経常収益は32,339百万円（同11.6%増）となりました。一方、保険引受費用21,771百万円（同14.8%増）、営業費及び一般管理費8,479百万円（同16.6%増）などを合計した経常費用は30,486百万円（同14.6%増）となりました。その結果、経常利益は1,853百万円（同21.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,320百万円（同15.3%減）となりました。

### 2018年度に向けて

2018年度におきましては、ペット保険事業の拡大を継続し、新規事業の果実を確かなものとするに注力します。そのために、以下の重点施策に取り組んでまいります。

1つ目の施策は、「ペット保険のさらなる収益力向上」です。

アニコム損保におけるペット保険の保有契約件数は約70万件ですが、当社のみならずペット保険自体の普及率は必ずしも高いとは言えず、成長途上の市場であると認識しております。また、ペットの飼育頭数が減速するというデータもある中、ペット保険会社が増えていることから厳しい競争環境となっており、今後もさらなる競争が続くことが予想されます。

今後、動物の健康保険制度として社会に広く認知・活用されるよう、魅力ある保険を提供し続けるとともに、他社の保険商品との優位性を打ち出していくことが急務であると考えております。また、最重要ターゲットであるペットショップチャンネルとともに、既に飼育されているペットをターゲットとした一般チャンネルへ注力する販売戦略を継続します。特にWEB等の直販チャンネルの拡大や、ペットショップ以外のチャンネルの開拓といった規模拡大に向けた方針を引き続き推進します。

ペットショップ以外のチャンネルとは、ブリーダーチャンネルや、保護犬・猫の譲渡会、トリミングサロン等その他動物関連施設での対面販売であり、この点の営業力をさらに強化していきます。

加えて、これらの顧客特性にあった商品や、付帯サービスの開発を行い他社とのさらなる差別化を図ります。

2つ目は「予防に向けた取り組み強化（新規事業の果実を確かなものに）」です。

当社の創業からの思いである「予防型保険会社」の実現に向け、これまでも数多くの取り組みを行ってまいりましたが、これまでに

投資を進めてきた人材・設備・データを活用し、1つでも多くの傷病を1秒でも早くなくすることができるよう、引き続き取り組んでまいります。特に、遺伝病撲滅に向けては、遺伝子解析といった科学・技術・データに医療サポートを加えたフリーディング支援を行うとともに、遺伝病発症予防の事業化を行ってまいります。

また、従来から行ってきた、ペットの腸内フローラ検査に関しては、世界トップクラスの研究データを有しており、この成果とペットの生活習慣に関するデータベースをあわせて、腸内フローラ検査による健康診断の普及、共生細菌をキーにしたフード開発、生活習慣コンサル等を事業化し、収益に繋げてまいります。

さらに、動物医療における高度先進医療（細胞治療、再生医療）を実用化し、拡大を図ります。また、カルテ管理システム事業の拡大（予約システム等の機能の充実）等とあわせ、データのさらなる活用による予防法の開発、ペット関連事業の海外展開を目指し、動物医療の発展に寄与してまいります。

### ペットの生涯すべてと接するインフラプレーヤーとして

現代社会において、わたしたち人間とともに暮らす動物は「家族の一員」であることはもちろん、隣に寄り添うだけで心の豊かさをもたらし、明日への大きな活力を与えてくれる存在となっています。それはまさに、わたしたち人間にとって「心の発電所」とも言える存在です。

当社グループでは、そのような家族であり心の発電所でもある動物がケガや病気をせず、長く健康に幸せに暮らせる社会を創り上げることが、わたしたち人間に長く活力を与え、社会の発展に貢献するものであると捉え、すべての命の幸せを追求してまいります。

そのためにも、単なる保険会社グループではなく「ペットの生涯すべてと接するインフラプレーヤー」の確立に向けた足取りを加速させ、動物業界における川上から川下までを発展的に繋ぐよう今後とも取り組んでまいりる所存です。

今後も動物業界全体の発展に向けて、グループ従業員一丸となって、より一層の努力を重ねてまいりる所存でございますので、引き続き株主のみなさまのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当年度末 2018年3月31日現在	前年度末 2017年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
現金及び預貯金	19,078	15,242
有価証券	4,625	5,914
貸付金	196	294
有形固定資産	1,359	1,432
無形固定資産	1,462	904
その他資産	3,908	3,876
繰延税金資産	623	597
貸倒引当金	△ 88	△ 140
資産の部合計	31,164	28,123
<b>負債の部</b>		
保険契約準備金	14,508	12,993
その他負債	2,845	2,635
賞与引当金	173	172
特別法上の準備金	48	41
負債の部合計	17,576	15,842
<b>純資産の部</b>		
資本金	4,443	4,402
資本剰余金	4,333	4,292
利益剰余金	4,770	3,539
自己株式	△ 0	△ 0
株主資本合計	13,546	12,233
その他の包括利益累計額	△ 128	△ 100
その他有価証券評価差額金	△ 128	△ 100
新株予約権	169	148
純資産の部合計	13,587	12,281
負債及び純資産の部合計	31,164	28,123

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当年度 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	前年度 2016年4月1日から 2017年3月31日まで
経常収益	32,339	28,978
経常費用	30,486	26,606
経常利益	1,853	2,372
特別損失	13	203
税金等調整前当期純利益	1,839	2,169
法人税及び住民税等	534	783
法人税等調整額	△ 14	△ 172
法人税等合計	519	610
当期純利益	1,320	1,558
親会社株主に帰属する当期純利益	1,320	1,558

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当年度 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	前年度 2016年4月1日から 2017年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	3,393	3,231
投資活動による キャッシュ・フロー	253	4,233
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 10	△ 79
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	3,635	7,385
現金及び現金同等物の 期首残高	13,492	6,106
現金及び現金同等物の 期末残高	17,128	13,492

## 連結株主資本等変動計算書

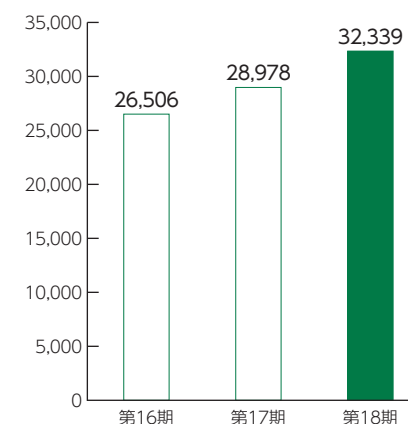
(当年度 2017年4月1日から2018年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	4,402	4,292	3,539	△ 0	12,233	△ 100	△ 100	148	12,281
当期変動額									
新株の発行	41	41			82				82
剰余金の配当			△ 89		△ 89				△ 89
親会社株主に帰属する当期 純利益			1,320		1,320				1,320
株主資本以外の項目の当期 変動額 (純額)						△ 27	△ 27	21	△ 6
当期変動額合計	41	41	1,230	－	1,312	△ 27	△ 27	21	1,306
当期末残高	4,443	4,333	4,770	△ 0	13,546	△ 128	△ 128	169	13,587

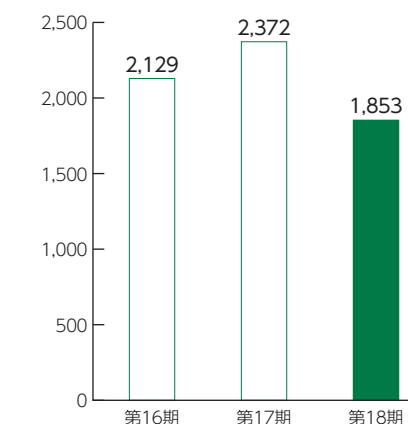
## 経常収益

(単位:百万円)



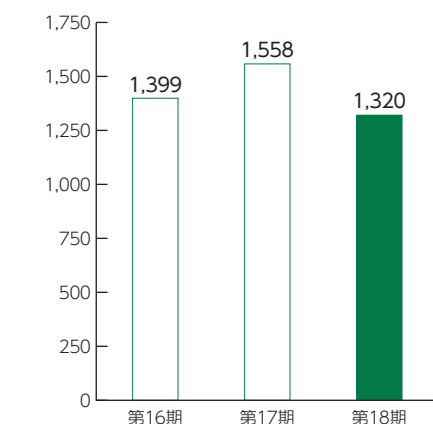
## 経常利益

(単位:百万円)



## 親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



## 動物の尊厳を守り、高める活動（CSR活動）



動物に関わる企業として、『動物の尊厳に関する宣言』を社内で掲げ、「動物の尊厳」を軸にCSR活動を行っています。2017年8月には、飼い主のいない

動物に家族との出会いの場を提供すべく、NPO法人東京キャットガーディアンと共同で猫の譲渡会を開催。2018年3月からは、丸紅新電株式会社と協業し、電力料金の一部を殺処分ゼロや野生動物保護といった動物のための様々な活動に充足する「しっぽ応援プラン」を実施しています。また、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）の野生動物保護に関する活動も支援しています。

## 株式会社ベネッセコーポレーションとの提携開始

飼い主様向けサービスを強化する目的で、株式会社ベネッセコーポレーションとの協業を開始しました。当社グループのペット保険をベネッセ社で保険代理店として販売いただくほか、同社のコンテンツを通じて当社グループが培った予防情報を提供していく等、コンテンツの相互連携、ペットライフ分野での共同マーケティングを進めます。



## 「LINE」を活用した独自サービスを展開

飼い主様の利便性向上を目指し、2017年5月から、業界初となる「LINE」を活用した保険金請求サービスを開始しました。さらに2017年6月には、当社の獣医師に様々なお悩みを直接相談できる「どうぶつホットライン」も開設しました。



## VEQTA社への一部出資を実施



ペット及び家畜向けの遺伝子検査事業を行うベンチャー企業「株式会社VEQTA」への一部出資を実施しました。

当社グループのアニコム先進医療研究所株式会社では、DNA解析や代謝物分析といったペットの健康に関わる先進的な研究を進めており、今回の出資を通じ、VEQTA社と協力し、遺伝子検査事業の拡大及びペットの疾患に関する新規遺伝子の解明を含む研究開発をより一層推進していきます。

## 新商品「どうぶつ健保ぷち」を販売開始

2017年10月から、「入院」と「手術」の補償に特化し、保険料をこれまでの約1/3に抑えた「どうぶつ健保ぷち」の販売を開始しました。保険料は、月額1,020円〜と安価ながら、入院・手術費用の70%を補償し、手術1回あたり50万円までお支払します。フルカバー型のペット保険「どうぶつ健保ふぁみりい」を主力商品としつつ、「どうぶつ健保ぷち」を追加することで、多様なお客様のニーズに応じていきます。



## 動物への本格的な再生医療をスタート

富士フィルム株式会社と当社の合弁会社であるセルトラスト・アニマル・セラピューティクス株式会社は、動物の再生医療において、犬の眼疾患である難治性の「乾性結膜炎」を対象に、細胞を用いた治療の有効性を確認しました。本治療は動物医療分野では初めて人の再生医療と同等の品質管理基準に基づき培養された他家\*細胞を用いる画期的なものです。  
\*患者（患犬）自身以外の生体由来の細胞



## イーペットライフ社との協業開始

動物病院・トリミングサロン等の施設情報を発信するポータルサイト「EPARKペットライフ」を運営するイーペットライフ株式会社との協業を開始いたしました。今後、当社グループ子会社の各事業（ペット保険、電話相談サービスなど）と当該ポータルサイトの相乗効果、カルテ管理システム『アニコムレセプター』と、EPARK事業との将来的な連携、その他当社グループが展開する様々な事業とのシナジーなど、それぞれの販売力・企画力を活かした取り組みを進めていきます。



## 「東証IRフェスタ2018」へ出展



2018年3月に、日本取引所グループ/東京証券取引所主催の「東証IRフェスタ2018」に出展いたしました。ペット保険を中核事業とする当社ならではの試みとして、犬・猫に加え、ハリネズミと一緒にブース出展を実施し、大変好評をいただきました。ブースでの説明会及び当社代表取締役 小森 伸昭による会社説明会も各回満席の盛況ぶりでした。

## ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家のみなさまに向けた企業情報・財務情報をはじめ、当社グループの各種取り組みや経営パラメーターなどをご覧いただけます。

当社グループをさらにご理解いただくためのツールとしてぜひご活用ください。

<http://www.anicom.co.jp/>



# 株式の状況／会社概要

## 株式及び株主の状況 (2018年3月31日現在)

発行可能株式総数	48,000,000株
発行済株式の総数	18,028,000株
当期末の株主数	2,194名

## 大株主の状況

株主の氏名又は名称	当社への出資状況	
	持株数等(千株)	持株比率(%)
日本ライフサービス信託銀行株式会社(信託口)	2,358	13.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,369	7.6
KOMORIアセットマネジメント株式会社	1,220	6.8
ソニー損害保険株式会社	683	3.8
C B C 株 式 会 社	602	3.3
JP MORGAN CHASE BANK 385632	552	3.1
小 森 伸 昭	452	2.5
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	413	2.3
GOVERNMENT OF NORWAY	355	2.0
THE BANK OF NEW YORK 133524	327	1.8

(注) 持株比率は、自己株式(610株)を控除して計算しております。

## 会社概要 (2018年3月31日現在)

社 名	アニコム ホールディングス株式会社
設 立	2000年7月5日
資 本 金	4,443百万円
本 社	〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-17-1

## 役員 の 状 況 (2018年6月27日現在)

代 表 取 締 役	小 森 伸 昭
取 締 役 ( 社 外 )	戸 田 雄 三
取 締 役 ( 社 外 )	福 山 登 志 彦
取 締 役 ( 社 外 )	井 上 幸 彦
常 勤 監 査 役	須 田 一 夫
監 査 役 ( 社 外 )	岩 本 康 一 郎
監 査 役 ( 社 外 )	須 田 邦 之
監 査 役 ( 社 外 )	武 見 浩 充

## 株主メモ

事 業 年 度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年6月開催
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324

公 告 方 法	電子公告にて行う
	公告掲載URL <a href="http://www.anicom.co.jp/">http://www.anicom.co.jp/</a>
	ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。